

年頭所感 2014

公益社団法人

北海道臨床工学技士会

会長 室橋 高男

新年明けましておめでとうございます。2014年の新春を迎え、本年が会員皆様と当会にとって良い年になることをお祈り申し上げます。また、日頃より当会の活動に対しまして格別のご指導、ご支援を賜っております関係各位の皆さまに深く感謝申し上げます。

さて、現在の医療には医療機器の存在が不可欠となっており、それらの安全管理が強く求められております。当会は、医療機器の専門家として、学術 技能の研鑽を怠ること無く、生命維持管理装置をはじめとする様々な機器に支えられた医療の安全性と信頼性の向上を目的として活動しております。

昨年は、学術委員会、教育委員会企画の各種セミナーと学術大会を開催する中で、北海道臨床工学会では76演題と過去最高の演題数となり盛況に終えることができました。教育委員会では、40名程度を対象としたセミナーを複数回継続的に開催したほか、ロボット手術作業部会を新設し、先進医療へ臨床工学技士として活躍できるよう積極的に関わるべく進めております。財務委員会、事務局においては各種の受付、事務作業、会計処理など多方面に関わり各事業を成功に導いてくれています。広報委員会では、各セミナーに参加し、その内容を技士会ニュースへ掲載するほか、医療新聞等への取材協力など認知度向上に貢献しています。公益事業推進委員会では、一般の方々への公開講座を各地方で積極的に開催し、AEDの安全性と信頼性の向上に努め、確実に臨床工学技士の認知度を向上させております。そして、危機管理委員会は、本年3月に第1回危機管理セミナーを開催する運びとなっております。この場を借りまして当会活動へご尽力いただいている皆様には、心より感謝を申し上げます。

昨年同様、公益社団法人として公益事業を全道で展開する中で、「個々のスキルアップと技術の研鑽」も忘れることなく、教育システムの充実と道民の皆様へ貢献できる活動をしていきたいと思っております。また、道内に点在する臨床工学技士地方会との結束力を高めるために、今年度内に組織委員会を新設し、北海道の臨床工学技士が一枚岩となって、国や自治体へアピールできるよう組織力を高めるべく努力していく所存であります。

臨床工学技士が抱える様々な問題を克服するためには、未入会の方々へ入会のはたらき掛けを行うと共に魅力ある組織になるよう、当会のあり方について様々な視点から検討しつつ、改善を加えるべく進めて行きます。

今後、臨床工学技士の職能団体として公に訴えていかなければならない課題が山積みではありますが、今後も皆様の一層のご支援、ご協力をお願いし、本年が会員皆様にとりまして益々のご健勝の年でありますことをお祈り申し上げます。